

花 信

Kashin: The Shinshu University Library Bulletin

第3号 1998:3

目 次

電子文献閲覧室開設のすすめ …………… 1	平成9年度地域目録講習会開催 …………… 9
図書館アンケートの結果概要 …………… 2	富山医科薬科大学図書課長 星野雅英氏講演会開催 …… 9
学生自治会からの要望について …………… 6	お知らせ …………… 10
電子メールによる図書購入・文献複写 現物貸借申込 …… 7	業務日誌 …………… 11
平成9年度総合目録データベース 実務研修参加報告 …… 8	運営委員会名簿 …………… 12
第10回国立大学図書館協議会 シンポジウム報告 …… 9	人事異動 …………… 12
	編集後記 …………… 12

電子文献閲覧室開設のすすめ

成 田 進

我が信州大学でもネットワークが整備され教育や研究に利用されている方は多いと思われる。大勢の人がネットワークを情報収集に利用し、イーメール、ウェブ、メーリングリスト等を使っていると思う。簡単に最新情報を集めることができ、直感的に利用できる点から言えばウェブが一番である。最近では諸学会や出版社がウェブによる発行文献の紹介に非常に熱心で、数多くの本や雑誌の情報がネットワーク上で公開されている。その気になれば最新のホットな情報を研究室の机の上で簡単に手に入れることができるが、そのときの最大の問題は学会や出版社のホームページアドレスを手に入れることであろう。国内のアドレスなら比較的簡単に手に入るが、外国のものはそう簡単ではない。この問題に頭を悩ませていたが、最近北大附属図書館の有志の方の作られたデータベース(*)の存在を知った。このデータベースを利用すると効果的に興味のある電子文献のアドレスを集めることができ、大きな感銘を受けた。これなら「電子文献閲覧室」を研究室のパソコン上に構築でき、図書館まで出掛けなくても必要な

情報を収集できる。

実際に電子文献閲覧室を作り上げ、その便利さに満足もしたが、同時に諸問題の存在も明らかになった。最大の問題は、当然のことながら、お金を払わなければ「全」情報をアクセスできない点である。外国の図書館では既に、大学内から色々な電子文献をアクセスできるようになっている。そこでは雑誌を研究室にしながら閲覧でき、必要なら自分のパソコンを使ってその場で論文のコピーを手にする、「完全な意味での電子文献閲覧室」が現実のものになっている。またあらかじめキーワードを登録しておけば、関係した論文が出版されたとき知らせてくれるメーリングリストサービスもある。非常に羨ましいかぎりである。我が信州大学でもこのようになれば…と願っている今日この頃である。

(*) 北海道大学附属図書館(有志)作成ページのURL

http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/faculties/med/online_journal/index.html

(繊維学部助教授 なりた すすむ)

図書館アンケートの結果概要

昨年12月に実施しました図書館アンケート結果の概要を紹介いたします。このアンケートは先生方が日頃図書館をどのように利用されておられるか、また、図書館に対してどのような御意見をお持ちなのかを調査し、今後の図書館サービスの改善を図る上での参考にさせていただくために実施したものです。

全部で400名の先生方から種々の御意見をお寄せいただきました。御多忙のところ有り難うございました。なお、紙数の関係で今回は主な項目について全体の傾向を紹介することにとどめ、各館毎や専門領域毎の集計・分析、図書館としての考え方などは別途お知らせすることにいたします。

1. アンケートの配布及び回答者の内訳

信州大学の全教官を対象に、中央図書館及び各分館（以下、各館という）からそれぞれ対応した部局の先生方にアンケート用紙を配布しました。回収も各館で行いましたが、今回は電子メールでの回答も受け付けました。回答者の内訳、回答率等は表1のとおりです。

表1

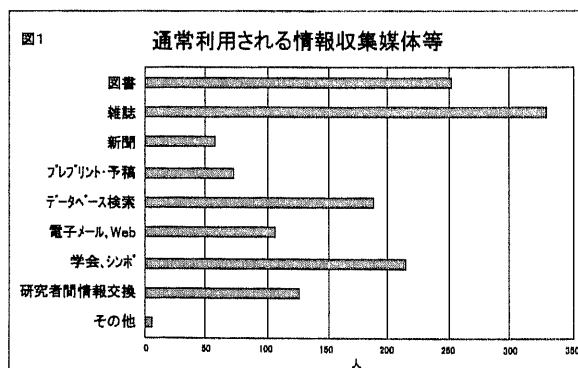
	中央図書館	教育学部 分館	医学部 分館	工学部 分館	農学部 分館	繊維学部 分館	医療短大	全 体
配布枚数	242	101	266	143	73	109	51	985
回収枚数	61	29	130	78	34	56	12	400
回収率(%)	25.2	28.7	48.9	54.5	46.6	51.4	23.5	40.6
内 訳 (1)								
教授	26	13	12	28	13	15	3	110
助教授	23	13	19	27	11	19	1	113
講師	3	3	27	4	2	5	3	47
助手	8		54	19	6	14	5	106
その他 (無記入を含む)	1		18		2	3		24
内 訳 (2) *								
人文科学系	17	8						25
社会科学系	16	6			1			23
理学系	22	8		8	21	16		75
工学系	2	1	130	69	2	33		237
医学系	2						11	13
その他 (無記入を含む)	2	6		1	10	7	1	27

* 主たる領域記入

2. 情報・文献資料収集活動および図書館利用の実情について

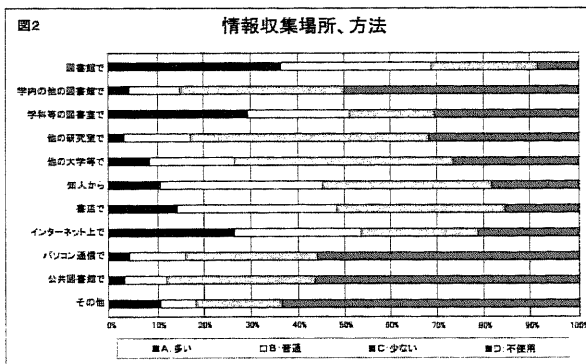
教育研究を遂行する上で必要な情報や文献を入手する場合、何によっているか、その手段や利用する媒体を9つに分類して回答していただきました。

→ 図1



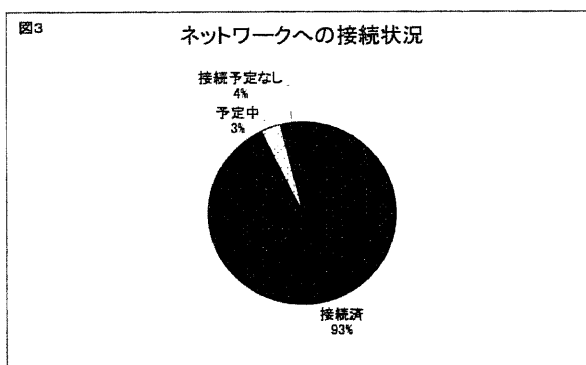
次に、各種の情報を収集する場所、方法を具体的にあげ、それぞれの利用頻度がどれくらいかを4つの段階に分けて回答いただきました。

→ 図2



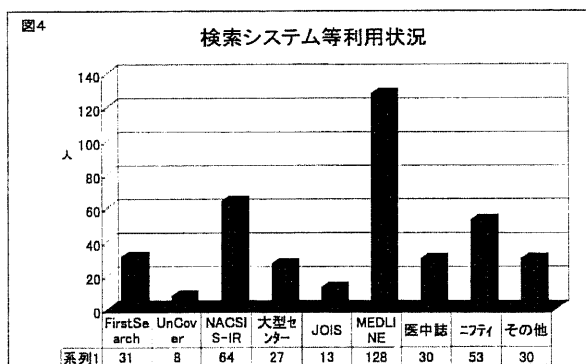
ネットワークを利用した図書館サービスを展開する上で、利用者の利用環境はもっとも気になるところです。先生方のネットワーク接続の有無等を伺いました。

→ 図3

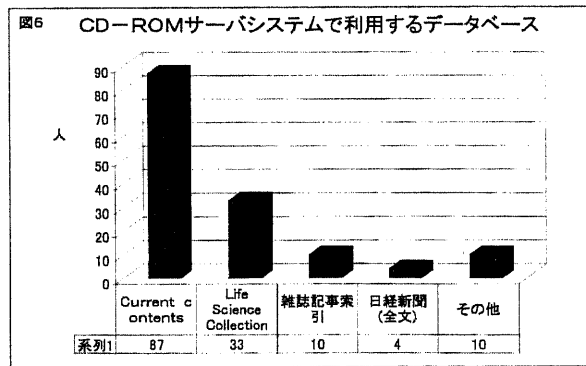
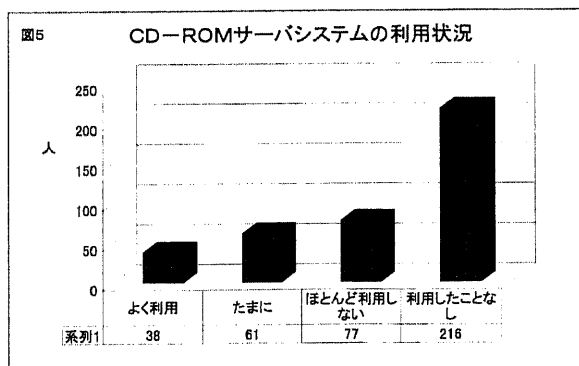


最近では、ネットワークをとおしてさまざまな検索システムが利用できます。最近1年以内で利用したことがある検索システム等(本学のCD-ROMサーバシステムを除く)を上げていただきました。

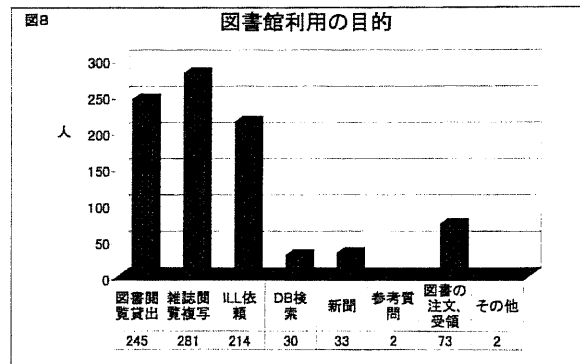
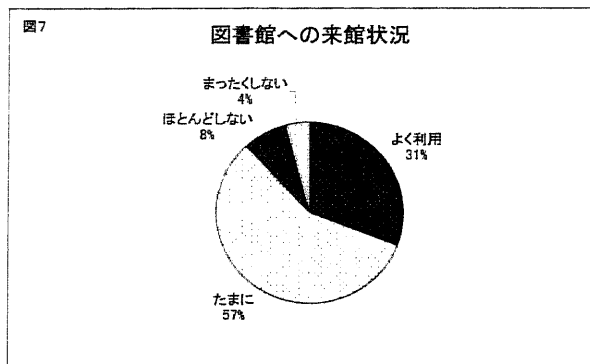
→ 図4



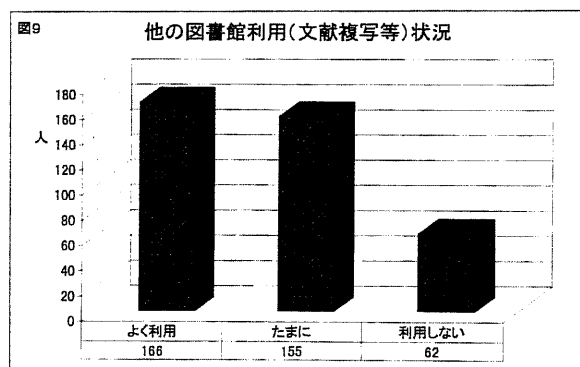
附属図書館では平成8年からCD-ROMサーバシステムによるデータベースの提供を始めています。その利用状況を伺いました。予算の制約で現在利用できるのはCurrent Contents等の少しのデータベースに限られています。→ 図5、図6



先生方が日頃図書館にどれくらい来館され、どのように(目的)利用されているかを回答いただきました。→ 図7、図8

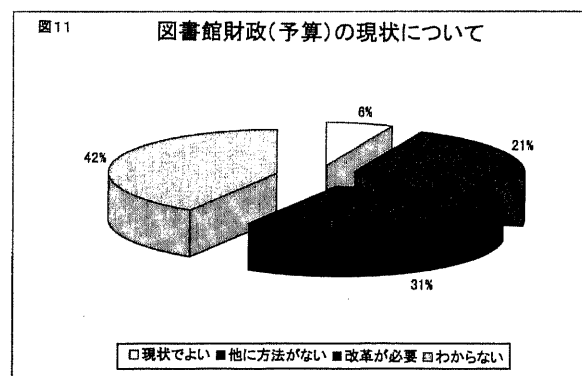
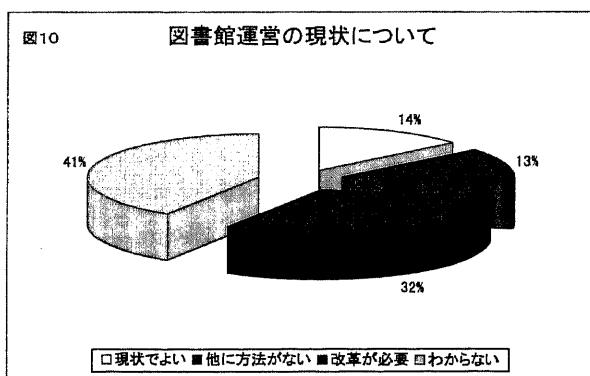


最近、他の大学等から図書を借用したり、文献の複写物を取り寄せたりするILL(図書館間相互利用)サービスの件数が飛躍的に増えています。その利用状況を伺いました。→ 図9



3. 図書館の管理運営の現状及び在り方について

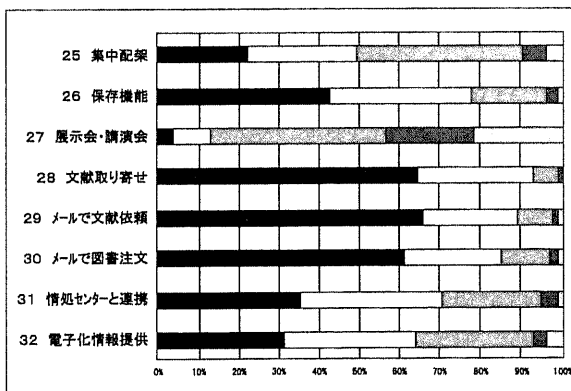
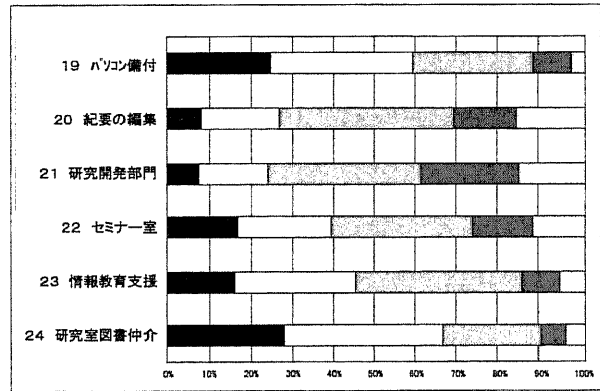
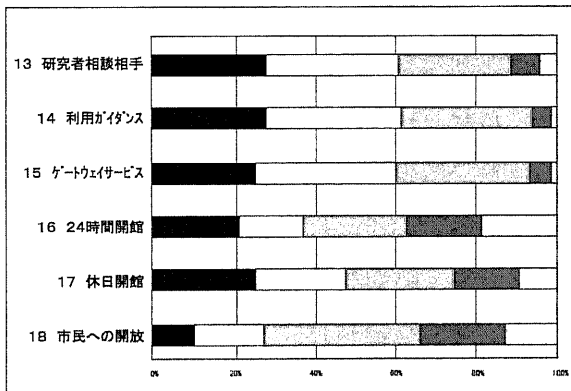
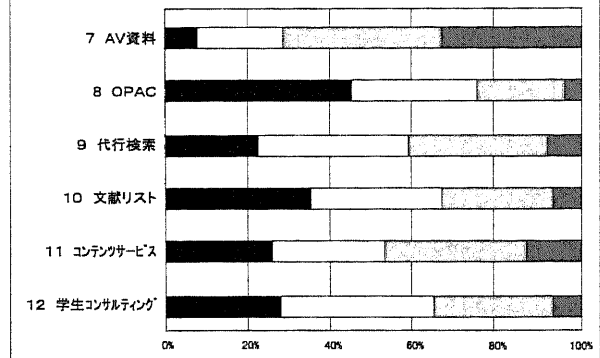
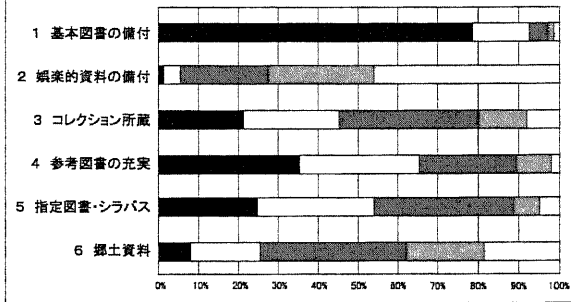
図書館運営と財政(予算)の現状について御意見を伺いました。図10、図11



現状とは別に、図書館における各種機能・サービスの在り方に対する意見を5段階(重要度)に分けてお聞きしました。→図12

図12 機能・サービス等の重要度(意識調査)

■A:重要 □B:やや重要 ■C:普通 ■D:それほど重要でない □E:重要でない



学生自治会からの要望について

中央図書館

昨年12月、共通教育学生自治会から中央図書館に対していくつかの要望があり、次のような趣旨の回答をしました。なお、注)はその後の状況です。

○中央館の全フロアへの冷房導入について

平成8年度に特別予算をもらい学内の全図書館にクーラーを設置し、図書館の利用環境の改善を図ったところです。中央館では2階閲覧室の一部に設置したところ、入館者が相当増加し、効果は大きいと考えています。予算獲得に努力しています。

○土曜日及び休日の開館について及び開館時間の延長について

土曜日の開館は中央館、医学部分館、工学部分館で実施しています。休日開館及び開館時間の延長は、「経費及び要員確保の問題」と、「利用見込み」との関係を検討中です。取りあえずは、中央館における試験期間の休日開館を具体的に検討したいと思っています。

注) 試験時期の休日開館については、1月15日(成人の日)と25日(日)に試行的に開館しました。15日は記録的な大雪にもかかわらず、通常の土曜日並みの入館者がありました。

○暖房の運転時間延長について

図書館の暖房については、松本キャンパス共同の集中暖房システムを利用しています。病院から地下共同溝を通して蒸気を取り入れる方式ですが、12月から3月までの間は、平日が19:30(閉館は20:00)、土曜日が15:00(閉館は16:00)まで、送気されるようにしています。ただし、11月中は平日16:00で切れますので、夜間は石油ストーブで対処しています。日にちの調整は検討してみたいと考えています。

○蔵書の充実及びそのための予算配分の強化について

信州大学の図書館には、蔵書が少なく、古いという現状はご指摘のとおりです。このような状況

を改善するために、学習用図書購入費の増額及び収書方法について現状分析を行い、学内の関係者へ予算の増額等を申し入れているところです。学習用図書資料の不足は、各大学においても同様の悩みですが、本学の場合、分散キャンパスであること、研究用として購入された図書はそれぞれの研究室や学科図書室に分散配架されていること等、長年にわたって行われてきた資料管理の在り方も関連して、他大学よりも実際に図書館にある蔵書が貧弱になっています。学習用図書資料の充実については、文部省から配分される図書資料費の増額を全国の大学図書館協議会を通して文部大臣等へ要望するとともに、学内の経費負担の在り方等について図書館運営委員会において鋭意検討を重ねているところです。

○かばん等の持ち込みについて

現在は、入館の際はかばん等の袋類はロッカーへ収納し、館内へは筆記用具や図書資料(ただし、個人の図書や貸出手続きが済んだ図書の館内持ち込みの場合は、図書携帯証明書を持ち込み冊数分、携帯のこと)等に限って持ち込み可能としています。これが不便だという主張は理解できます。

上記の手続き解消のために、現在、ブックディテクションシステムの導入経費の予算要求を行っています。このシステムは、貸出手続きを行っていない図書を館外へ持ち出そうとするとブザーが鳴動するもので、すでに相当数の大学図書館へ設置済みのものです。予算に関することですから確かなことは言えませんが、図書館では、遅くとも数年以内には当該予算は措置されるものと期待しています。このシステムが設置されれば、持ち込み制限等は必要ないと考えています。それまでは現行の方式を続ける予定です。

なお、ロッカー不足や鍵の故障については改善を予定しています。最近では置き引き等も発生していますので、貴重品は携帯してください。

注) ブックディテクションシステムは平成10年度に導入することが決まりました。また、ロッカーについてはコイン式(お金は返却される)を新たに設置しました。

電子メールによる図書購入・ 文献複写・現物貸借申込

現在、図書の購入や文献複写の申込みは所定の用紙に記入して申込みいただいておりますが、メールでも申込み可能なシステムを計画していますので、その概要についてお知らせします。利用できるようになりましたら別途ご連絡します。

1 登録申込

購入申込メールを送付する前に、このシステムに登録する申し込みを1回だけ所属館室宛てに行ってください。各館室で受付登録を行い、申込者にIDとパスワードをご連絡します。

2 利用できるサービス

- ・校費による図書の購入(注文)申し込み
- ・他大学及び学内の他の図書館(分館等)への文献複写の申し込み
- ・他大学及び学内の他の図書館(分館等)への現物(図書)借用の申し込み
- ・各申し込みの処理状態の確認

◎ 図書購入申込概略

購入しようとする図書をOPACで検索後、図書購入申込メール画面に遷移することができます。直接図書購入申込メール画面に遷移することもできます。

①購入希望図書がOPAC検索でヒットした場合

OPAC書誌所蔵詳細画面下部の「図書購入申込」ボタンをクリックすると、当該書誌事

項が自動的に入力されている購入申込画面に遷移しますので、確認のうえ「メール送付」ボタンをクリックしてください。

②購入希望図書がOPAC検索でヒットしなかった場合

「OPAC簡略書誌」表示画面(検索結果0件)下部の「NACSIS-Webcat」または「Search Engine For Japanese Books」(予定)ボタンをクリックする。これらのデータベースを検索、当該書誌をコピーして購入申込画面に戻り貼り付け、「メール送付」ボタンをクリックしてください。

なお、ヒットしなかった場合などは直接入力して申込みください。

[NACSIS-Webcat] 全国の大学図書館等の所蔵する図書や雑誌の総合目録です(学術情報センター(NACSIS))

「Search Engine For Japanese Books」1997年6月までに発行され現在日本で入手可能な約53万冊の書籍を検索し必要な情報を引き出すページです。

※図書の書名などのデータを入力する必要は殆どありませんので、ご利用ください。

◎ 文献複写及び現物貸借も、図書購入の申込要領と概ね同じです。

ERLシステムの機能向上について

1 サーバソフトのバージョンアップがなされました。従来、毎週のデータ更新に際し表示順序の変更のため、システムをシャットダウンする必要がありました。今回のバージョンアップによりこの必要はなくなりましたが、更新データが使用できるように設定すると前データベースは自動的に使用できなくなります。前データベースを使用中の利用者の方には、「データベースが更新されたので、この(前)データベースは5分後に使用できなくなる」旨のメッセージが表示されますので承知ください。

2 WebSPIRS検索ソフトのバージョンアップ

がなされました。ブラウザでの使用方法が次の部分について異なります。今まで、検索画面と結果表示画面は同一で、検索を実行すると必ず検索結果が表示されましたが、新バージョンでは別の画面となりクリックして表示するようになりました。このことにより unnecessary 表示(時間)がなくなり、パフォーマンスが向上しました。

3 Current Contents Searchに次の検索項目が増加しました。

- ・図書及び出版社情報の追加
- ・著者情報の追加
- ・Library of Congress numbersの追加

平成9年度総合目録データベース 実務研修参加報告

平成9年11月10日～11月28日の3週間を、総合目録データベース実務研修に参加して東京の学術情報センターで過ごしました。この研修は「学術情報センターが提供している目録所在情報サービスの利用機関の目録担当の職員を対象にした3週間の研修で、各機関において目録担当者の指導、レコード調整などを行う中核となる職員の養成を目的」に現在は年2回行われているものです。

《目録所在情報サービス》とは図書館を利用される方なら多分利用されたことのあるOPAC（信州大学で所蔵している資料を検索するシステム）と大いに関係のあるNACSIS-CATと、文献複写や図書の相互貸借サービスに欠かせないNACSIS-ILLという2つのサービスです。このNACSIS-CATに接続している機関は世界で565もあり、それぞれの担当者が自館の所蔵目録を作成することにより、全国的な図書・雑誌の総合目録を構築しています。その結果がNACSIS Webcat（URL <http://webcat.nacsis.ac.jp/>）で、信州大学ではそれに少し手を加えてOPAC（URL <http://shinlis2.shinshu-u.ac.jp/opac/>）を形成しています。

今回の研修の大きな柱は個人レポートの作成で

したが、私は「NACSIS-SATにおける講習・研修のあり方」というテーマでとりくみました。どんどん大きくなるデータベースの宿命なのか、登録データ数の増加に伴い、ルールから外れたデータを修正するという（余分な）業務が増えています。今回の研修中にもNACSIS-CATの講習会があり、34名の講習生が操作方法を学んで所属機関に帰りましたが、果たして研修講習会がほんとうに役立っているのか、質の高いデータベースを維持していくために担当者養成はどのように行われるべきなのかについてまとめました。

普段は時間に追われて目先の業務をこなすだけで精一杯なのですが、こうやって考える時間を持たたことに感謝します。またデータベースを形成するということについての研究者の講義、学術情報センターのスタッフの話、12人の受講生の率直な意見を聞くことができたのもいい経験でした。特に今回は教育学部のように部局の図書館でいろいろな仕事をかけもちしている人も多く、励みになりました。最後に3週間の留守をフォローしてくださった職場のスタッフに感謝の意を表します。

教育学情報係 押見智美



第10回国立大学図書館協議会シンポジウム報告

去る12月2日から3日の2日間東京工業大学附属図書館(東地区)において国立大学図書館協議会シンポジウムが開催され、昭和62年の開催から早10回を数えるに至った今回のテーマは「電子図書館の具体化とその経営組織」であった。

第一日目は、図書館情報大学田畑孝一教授による「大学における電子図書館の発展のために」という演題の基調講演と先行大学の事例が紹介された。事例報告は始めにマルチメディア・ライブラリを築くことによって情報へのアクセスをより容易にしようと取り組んでいる長岡科学技術大学の報告に続き、東京工業大学からドキュメントデリバリシステム構築のプロジェクト活動の紹介。また、東北大学から国外における電子ジャーナルのコンソーシアム方式による契約(Consortium Licensing)の紹介と、東北大学の事例を交えながら国内におけるコンソーシアム方式による契約の可能性と課題について報告があった。更に米国の西海岸を中心とした大学図書館等が行う、電子

図書館の視察報告が東京大学からなされた。

Webブラウザ等で提供される電子ジャーナルが急激に増えてきているが、価格やその後の運用においてコンソーシアム方式による契約がはたして有利なのか、県内各地に学部が分散する信州大学内での応用も含め契約導入の可能性を探る必要があるだろうと感じた。

第二日目は筑波大学図書館森茜部長の特別講演と活発な全体討議があり2日に渡るシンポジウムは盛況のうちに閉会した。森部長は電子図書館についての概念を述べられると共に、電子図書館を導入した大学図書館がこれからどう総合情報サービス活動に貢献したらよいか、また、その運営体制や電子図書館に係わる著作権処理の方策などについて、筑波大学図書館の取り組みを紹介しながら講演された。講演の中で特に、未だ定説のない電子図書館の概念を総合的に説明され、出席者全員の注目するところとなった。

雑誌情報係 手塚久盛

平成9年度 地域目録講習会開催

学術情報センター、信州大学附属図書館共催の標記講習会を、97年8月27日(水)～29日(金)の3日間、信州大学附属図書館会議室にて行いました。

学術情報センターより、宮澤彰教授、目録情報課雑誌目録情報係員上村氏を講師に招き、信州大学5名、石川高専2名、長野高専、大谷大学、北陸農業試験場各1名の合計10名が受講されました。

富山医科薬科大学図書館課長星野雅英氏講演会開催

『図書館は今何をすべきか — 大学図書館業務改善への提言 —』

97年12月4日(木)午後3時～5時、本学TV会議システムを使用して、富山医科薬科大学図書館課長、星野雅英氏により、標記講演会を開催しました。本学図書館職員を対象として、大学図書館の現状と改革について講演されました。

図書館に対する評価を今秋実施されたアンケート調査結果をもとに分析され、現在の図書館が何を求められているのかを出発点として、「図書館へ期待されるもの」を説明されました。また、その対策案として、1)「図書館予算、組織」の見直し、2)会計制度の改善、3)「保存図書館、雑誌センター館」設置の必要性、4)文献画像伝送システムの導入による文献複写業務の簡素化、5)少し古い雑誌の電子化を提示されました。

お 知 ら せ

平成9年度夏季遡及入力結果報告

	冊数	対象分野
中央館	9,211冊	文学：5,497冊、芸術：2,438冊、産業：1,074冊、その他202冊
教育学部分館	1,186冊	全て教育学
医学部分館	3,386冊	全て医学
工学部分館	1,185冊	全て工学
農学部分館	2,037冊	全て自然科学
繊維学部分館	517冊	全て自然科学
医短図書室	1,058冊	全て医学
合計	18,580冊	

本学関係(者)著作寄贈図書一覧 (平成9年7月～9年12月)

ここには本学関係者が著作・編集・刊行等に関係した図書で、図書館に寄贈された分を掲載しています。御寄贈ありがとうございます。今後ともよろしくお願いたします。

書名	発行者	出版年	寄贈者	所属
*中央館				
読むということ(未発選書)	ひつじ書房	1997	和田敦彦	人文学部
武田信玄(中公新書)	中央公論社	1997	笹本正治	人文学部
韓国風俗産業の政治経済学	新幹社	1997	金 早雪	経済学部
英語科教育における創造性	三省堂	1997	渡邊時夫	教育学部
来るべき世紀の人間科学を求めて	ぶっく東京	1994	筒井健雄	教育学部
体験過程と意味の創造	ぶっく東京	1993	筒井健雄	教育学部
コンピュータの基礎知識	昭晃堂	1996	六浦光一	経済学部
Cプログラミング例題演習	学献社	1996	六浦光一	経済学部
ブラームス声楽曲対訳全集(全2巻)	現代芸術社	1997	上村英夫	元医療技術短大
*教育学部分館				
英語科教育における創造性	三省堂	1997	渡邊時夫	教育学部
*農学部分館				
幾山河	コースビジコム出版	1997	清水純夫	名誉教授
ネズミと共に三十年	吉田元一教授退官記念事業会	1997	吉田元一	名誉教授
「む」菅原会OBの言葉	信州大学農学部菅原会	1996	中堀謙二	農学部

業務日誌

平成9年

- 7月11、14、16、18日 雑誌目録に関する研修会(中央館)
- 7月22日 目録担当者実務研修会(平成9年度第1回 中央館)
- 7月24日 附属図書館運営委員会(平成9年度第2回 SUNS使用)
- 8月6-7日 第4回医学図書館員基礎研修会(奈良県立医科大/医学情報係:渡邊)
- 8月18-22日 第3回情報ネットワーク担当職員研修(ネットワーク管理I)
(学術情報センター/学術情報係:金井)
- 8月27-29日 学術情報センター目録システム地域講習会(図書コース)(中央館/総務係:有坂、
図書情報係:藤田、教育学情報係:瀬尾、医学情報係:渡邊、繊維学情報係:鳴澤及び学外者5名)
- 9月2日 図書館業務改善検討委員会WG全体打合わせ
- 9月11日 平成9年度関東甲信越静地区著作権セミナー(習志野市/図書情報係:塚原、医学情報係:渡邊)
- 9月25日 目録担当者実務研修会(第2回 中央館)
- 9月30日 図書館業務改善検討委員会WGチーフ会議(第1回)
- 10月15日 全学図書関係係長会議(平成9年度第2回)
- 10月22日 附属図書館運営委員会(平成9年度第3回 SUNS使用)
附属図書館収書委員会(平成9年度第1回 SUNS使用)
- 10月23-24日 第18回北信越地区医学図書館協議会(松本歯科大/医学情報係:淵井)
- 10月28日 図書館業務改善検討委員会WGチーフ会議(第2回)
- 10月31日 学術雑誌総合目録欧文編1998年版全国調査説明会(東医歯大/雑誌情報係:杉本、
教育学情報係:押見、医学情報係:上條、工学情報係:城倉、繊維学情報係:北澤)
- 11月6日 目録担当者実務研修会(第3回 中央館)
- 11月10-28日 第2回総合目録データベース実務研修(学術情報センター/教育学情報係:押見)
- 11月11-14日 平成9年度大学図書館職員講習会(大阪会場/資料サービス係:田村、繊維学情報係:武田)
- 11月13-14日 平成9年度北信越地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議(芦原/部長・サービス課長)
- 11月14日 第5回NACSIS-IR講習会(学術情報センター/医学情報係:春原)
- 11月20日 附属図書館運営委員会(平成9年度第4回 SUNS使用)
- 11月20-21日 平成9年度北信越地区国立大学図書館研修会
(福井大/図書情報係:石坂、教育学情報係:丸山、農学情報係:清水)
- 11月28日 第10回北信越地区医学図書館員研修会(日歯大/医学情報係:小林)
- 11月28日 図書館事務改善検討委員会WGチーフ会議(第3回)
- 12月2-3日 第10回国立大学図書館協議会シンポジウム(東工大/雑誌情報係:手塚)
- 12月3-5日 第5回目録システム講習会(図書コース)(学術情報センター/教育学情報係:丸山)
- 12月4日 平成9年度第1回附属図書館講演会(SUNS使用)
講師:富山医科薬科大学教務部 星野雅英図書課長)
- 12月9日 目録担当者実務研修会(第4回 中央館)
- 12月15-19日 第3回情報ネットワーク担当職員研修(ネットワーク管理I)
(学術情報センター/雑誌情報係:手塚)
- 12月18日 電子図書館機能検討ワーキンググループ(第1回 SUNS使用)
- 12月19日 全学図書関係係長会議(平成9年度第3回)

平成10年

- 1月22日 平成9年度国立大学附属図書館事務部長会議(静岡大/部長)
- 1月27日 目録担当者実務研修会(第5回 中央館)
- 2月4日 電子図書館機能検討ワーキンググループ(第2回 SUNS使用)
- 2月16日 自己点検・評価実施委員会(第1回 SUNS使用)
- 2月23日 全学図書関係係長会議(平成9年度第4回)
- 2月23日 平成9年度第2回附属図書館講演会(旭会館)
講師:立命館大学総合情報センター 郷端清人次長

附属図書館運営委員会名簿

(平成9年11月1日現在)

附属図書館	館長	○ 田 卷 義 孝	工 学 部	分館長	○ 小 沼 義 治
人文学部	教授	水 野 知 昭		教 授	田 中 道 彦
	助教	○ 數 土 直 紀	農 学 部	分館長	○ 太 田 克 明
教育学部	分館長	○ 横 田 通 宏		教 授	柴 田 久 夫
	教授	山 下 宏	織 維 学 部	分館長	中 沢 賢
経済学部	教授	青 才 高 志 勉		助 教 授	○ 小 西 哉
	教授	○ 都 築 勉	事 務 局	事務局長	渡 部 翁
理学部	教授	○ 井 上 和 行			
	助教	竹 下 徹			
医学部	分館長	○ 福 島 弘 文	オブサーバー		
	教授	松 尾 清	医療短大	助 教 授	川 上 由 行

○印は収書委員

人 事 異 動

発令年月日	事項	新官職名等	氏名	
9. 8. 31	辞 職		北 原 さ ち 子	農学情報係事務補佐員
9. 9. 1	採 用	農学情報係事務補佐員	高 見 か お り	

編 集 後 記

今、大学図書館機能の強化・高度化が要望されています。今号には図書館の新たな機能に関連して「電子文献閲覧室開設のすすめ」を、織維学部成田教官よりご寄稿いただきました。電子文献等の入手には、成田先生が書かれているように有料のものが多いたが実状です。それらを入手しさらに継続的に購入していくことは、教官個人あるいは学科や学部でも簡単ではありません。また、図書館情報大学の石井先生も今年3月本学の講演会

において、有料のオンラインサービスはあまり利用されないが、図書館のCD-ROM等の無料サービスは物凄く利用されていると指摘されています。このため、学部を超えた効率的な電子情報の提供を、大学図書館のサービスとして拡充的に推進していく必要があります。この実現には人手や経費の面で、学内関係各位のご理解とご協力が重要かと考えられます。また、図書館としても提供する体制作りが急がれるところです。

花 信 第3号 1998年3月31日

■ 編集・発行 信州大学附属図書館

〒390-8621 松本市旭3-1-1

TEL 0263 (37) 2174・FAX 0263 (33) 5833

E-mail: jjl3000@gipac.shinshu-u.ac.jp